

おおさき

大崎遺跡 (本発掘調査B)

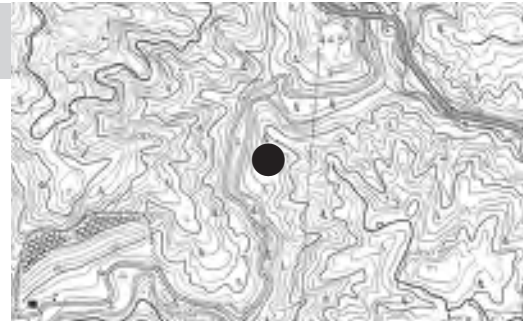
所在地 北設楽郡設楽町田口字大崎
(北緯35度06分22秒 東経137度33分50秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和4年5月～10月

調査面積 2,985㎡

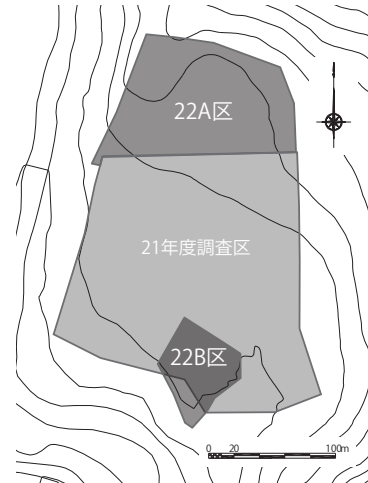
担当者 永井宏幸・川添和暁・社本有弥



調査地点 (1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は国土交通省中部地方整備局による設楽ダムに伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。

立地と環境 遺跡は境川東岸、河岸段丘状の緩斜面地上に立地する。当地は現在の田口集落西にある丘陵尾根が境川に向かって伸びる末端付近に当たり、遺跡の北と東には丘陵尾根が迫っている。北東側はこれら尾根に挟まれた谷地形で、湧水などのためか、調査前までは湿潤な環境となっていた。遺跡範囲内は北東から南西方向への傾斜地で、遺跡中央付近で傾斜の変換点があり、傾斜角度がさらに緩やかとなり南側へと続く。



大崎遺跡全体図

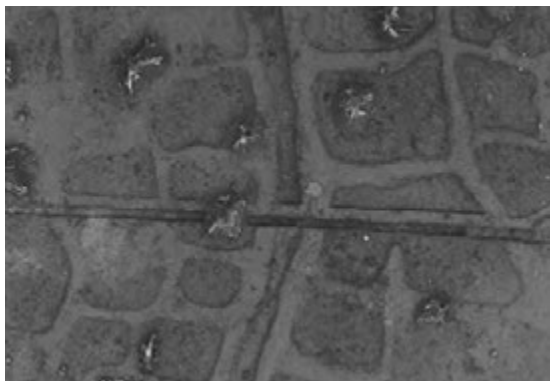
調査の概要 調査は前年度調査区の北側に22A区、前年度調査区の南に重複する形で22B区を設定、調査を行なった。層序は1層:表土、2層:灰黄褐色粘土層など、3層:ぶい黄褐色粘土・シルト層、4層:黒色粘土・シルト層、5層:明黄褐色粘土・シルト・砂・砂礫層となっている。今年度調査を行なった遺構・遺物は以下の通りとなっている。

時代・時期	検出・出土層	遺構(基数)	遺物
近世以降	表土	集石遺構(3)	陶器片
戦国期～近世	Ⅱ層中およびⅢ層上面	一部の水田関連遺構	陶器片
中世前半		水田関連遺構 [畦畔および水路]	山茶碗類【碗、小皿】、伊勢型鍋
古代		水田関連遺構か	灰釉陶器【碗、皿】
縄文時代中期～縄文時代後期	Ⅱ層下およびⅢ層上面	竪穴建物跡(11) 土坑(7)・包含層	縄文土器【深鉢等】、石器【石鏃、石匙、打製石斧、磨製石斧、スクレイパー類、叩石、磨石等】
縄文時代早期以前	V層直上	土坑1基	剥片

2 2 A 区 22A区では積石・集石遺構、水田関連遺構、縄文時代早期の調査を行なった。

積石・集石遺構は4基を調査した。積石遺構は方形で約10m四方、高さ約50cm、集石遺構は楕円形で長径約1mであった。前年度調査では集石遺構を数基確認しており、何らかの信仰に関わる遺構もしくは水田造成時に礫を集積した場所と考えられる。

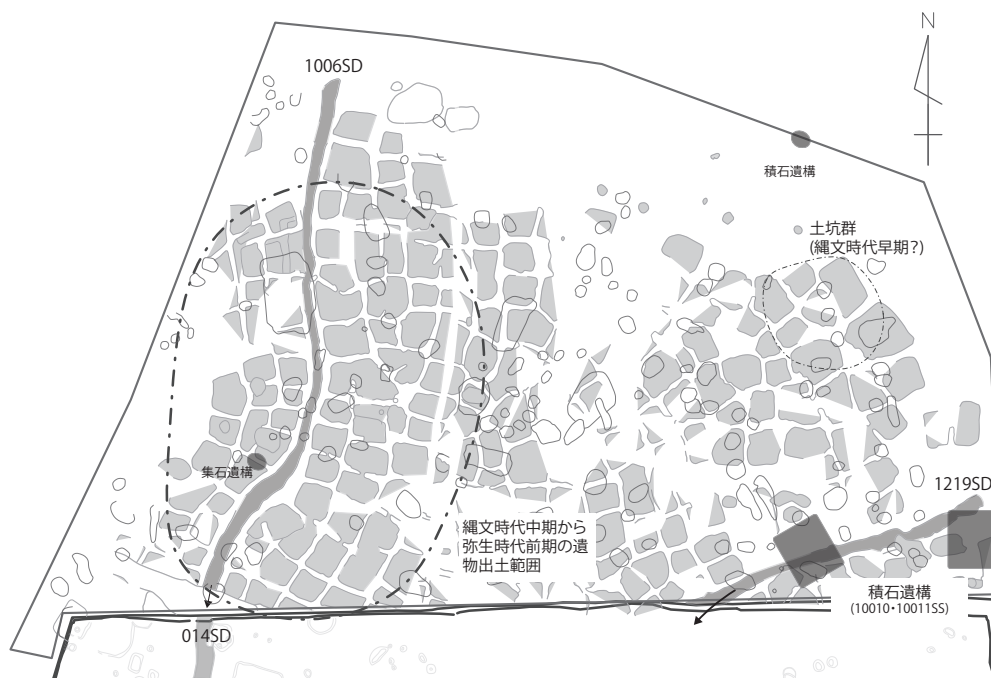
水田関連遺構は22A区の全域に展開している。畦畔、水路、畦畔内の耕作土で構成され、畦畔に囲われた区画は一辺約3～4mを主体とする小区画を呈する。今回の調査では、水路を二本確認した(1006SD・1219SD)。1006SDは調査区西部の北壁面付近から蛇行しながら西側に逸れ、前年度調査区の014SDにつながる。1219SDは調査区東壁付近から西へと伸び、おそらくこのまま昨年度の調査区へと繋がっていたと考えられる。そのため、本来の水田関連遺構は昨年度調査区を含め、ほぼ全域に展開していたことが想定される。畦畔を観察すると、一部で畦畔内に焼土塊が入っている箇所があり、畦畔を造る際に何らかの儀礼的な行為が行われたと考えられる。耕作土の中には、縄文時代・弥生時代・古代・中世までの幅広い時代の遺物が出土した。特に中世に当たる遺物としては山茶碗と伊勢型鍋を中心として古瀬戸や常滑の陶器片が出土しており、これらが水田関連遺構が使われていた時代の遺物と考えられる。



水田関連遺構



1006SD 土層断面



大崎遺跡 22A 区全体図 (1/250)

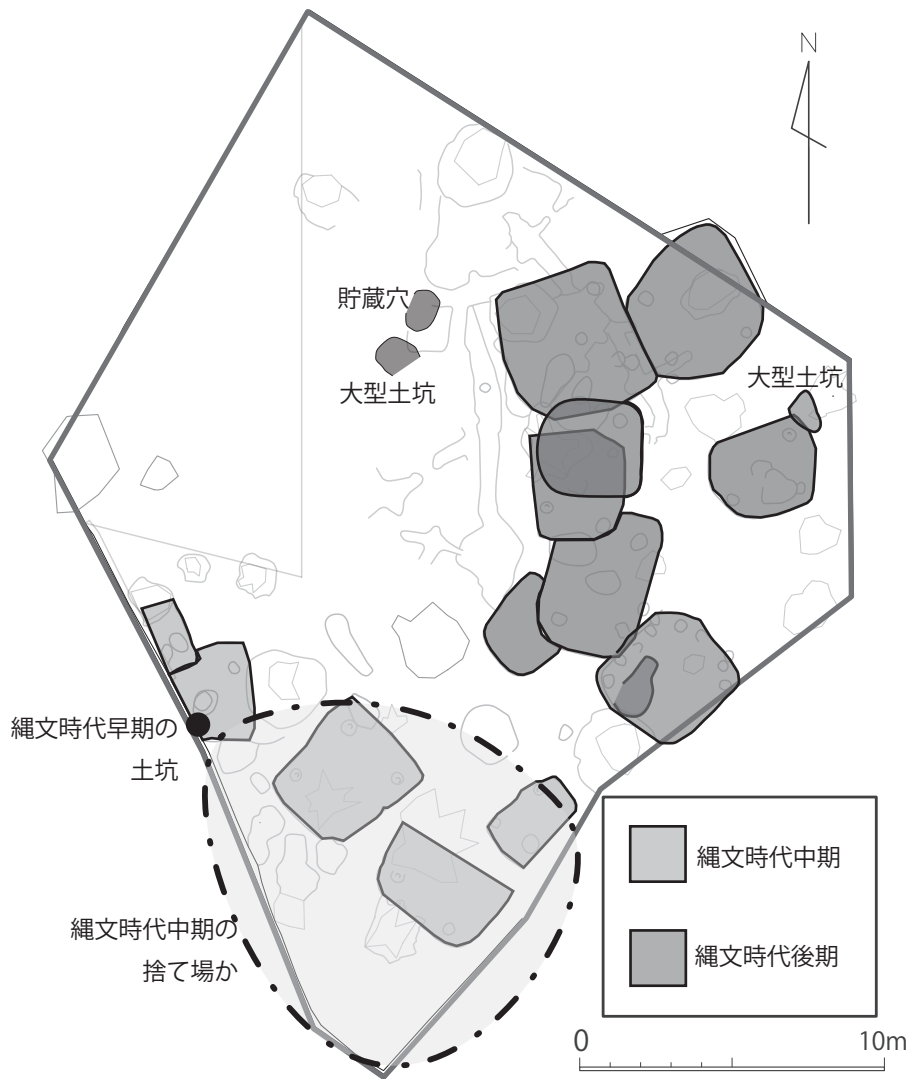
また、水田関連遺構の下面を調査したところ、斜面地では早期ごろの土坑が見つかり、表裏条痕土器や撚糸文土器の破片と安山岩製の剥片が散らばって出土している。

2 2 B 区 22B区では縄文時代中期から後期の遺構を調査した。

縄文時代中期の遺構は調査区の南西に展開していた。確認された遺構は竪穴建物跡3棟で、うち2棟は重複している(6015SI・6113SI)。重複している竪穴建物跡に注目すると、上の竪穴建物跡は正方形に近い隅丸方形で、石囲炉と思われる炉跡と柱穴が検出された。下の竪穴建物跡は隅丸でやや長方形を呈し、複数の柱穴と壁溝と思われる溝跡が検出された。

また、南端付近の傾斜地では遺物が広がって出土した。出土した遺物は縄文時代中期中葉から中期後半にかけてであり、土器を中心として、安山岩製の剥片や叩石・磨石などの礫石器が出土している。川へ落ちていく地形ということから、おそらく使えなくなった土器や石器の捨て場であったと考えられる。

縄文時代後期の遺構は、22B区の北東部に展開していた。確認された遺構は竪穴建物跡



大崎遺跡 22B 区全体図 (1/100)

7棟、大型土坑4基であった。特に調査区中央付近の竪穴建物跡は4棟の竪穴建物跡が重複していた。竪穴建物跡は約3～4m四方の隅丸方形を主体とするが、円形の竪穴建物跡も見つかっている。特に6052SIは土器敷戸が作られた痕跡が見つかっている。出土遺物としては、土器片や石器が出土、特に縄文時代後期中葉ごろの土器片が遺構内から纏まって出土している。

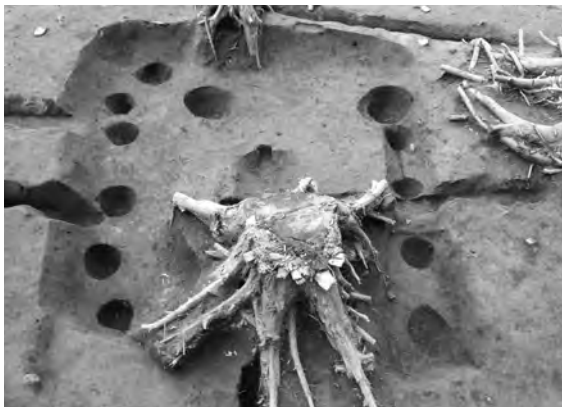
縄文時代 早期 22B区では土器が纏まって出土している。かなり崩れてはいるが、横位で埋まっていたと考えられる。遺物は22B区の南で見つかっており、早期後半と思われる土器片が点々と出土している。今回の調査では竪穴建物跡が確認できなかったが、縄文時代早期後半以降に何らかの活動があったと考えられる。
(社本有弥)



22B 区縄文時代後期の竪穴建物跡群



22B 区縄文時代後期の土器 (八王子式か)



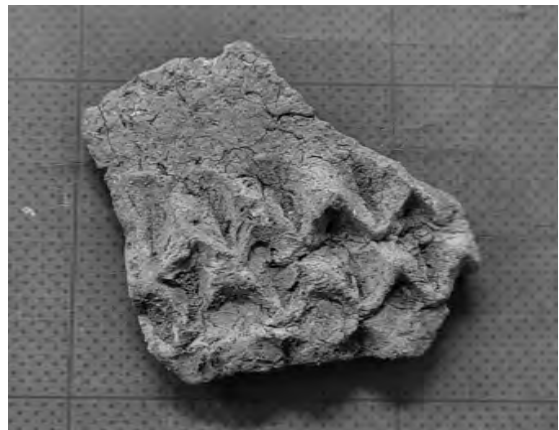
22B 区縄文時代中期後半の竪穴建物跡



22B 区縄文時代中期後半の土器



大崎遺跡 22B 区縄文時代早期土器出土状況



縄文時代前期の土器片 (入海式か)